

## Society5.0 を実現するモビリティ・インフラの先端研究拠点

移動の自由は人類の根源的な希求です。自動運転、電動化、水素社会、シェアリング、データ利活用などの社会実装は個社では解決できない課題に直面しています。社会受容性の醸成、法規制、社会制度、国際協調が必要となり、ルール形成力を持つ人材も求められます。そこで、筑波大学とトヨタ自動車（株）は Society5.0 を実現するモビリティ・インフラの先端研究拠点として、未来社会工学開発研究センターを設立しました。地域社会の次世代自動車交通基盤への提言やモビリティイノベーションの社会応用の研究に着手しています。社会工学を中核とした国際統合睡眠医科学研究機構やサイバニクス研究センターとの連携や数学応用で、学際性ある融合研究とオープンラボ機能を発揮し、組織的な産学官連携による拠点形成を進めます。



高原 勇センター長

### センターのミッション

### Society5.0 を実現する次世代自動車交通基盤

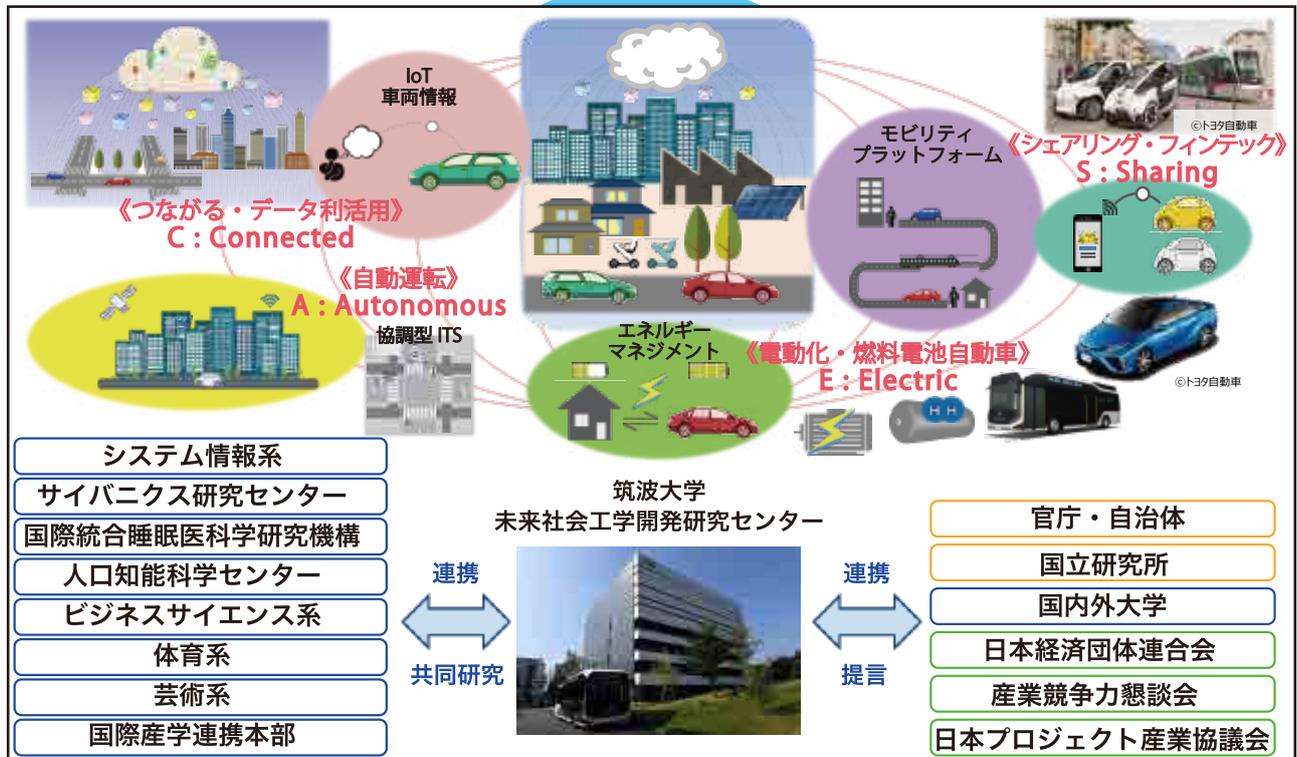
#### 《社会課題解決》



#### 《経済成長》



### モビリティイノベーションの社会応用



※開発研究センターとは…

外部資金を事業運営費として、社会的要請の高い学問分野での共同研究開発を積極的に推進し、産学官の共同研究体制を構築するため、平成 27 年 7 月 1 日より、順次創設されました。筑波大学のミッションである教育、研究、社会貢献のうち、社会貢献を担う新たな組織です。今後も新たな分野でのセンター増設を予定しています。